

金剛山麓鳥獸保護区

鳥獸保護区更新調査業務
報告書

平成31年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

目次

1. 調査の目的.....	1
2. 調査区域及び調査対象.....	1
3. 調査内容.....	2
4. 調査地の概要及び環境.....	2
5. 調査方法.....	3
6. 調査地区位置図.....	4
7. 調査結果.....	5
7-1 鳥類現地調査結果.....	5
7-2 哺乳類現地調査結果.....	12
7-3 鳥類文献調査結果.....	12
7-4 哺乳類文献調査結果.....	18
8. まとめ.....	19
9. 参考文献.....	24

1. 調査の目的

この調査は、大阪府が指定した既存鳥獣保護区のうち、金剛山麓鳥獣保護区の存続期間の更新についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査区域及び調査対象

金剛山麓鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等を調査対象とする。金剛山麓鳥獣保護区の範囲を図 2-1 に示す。

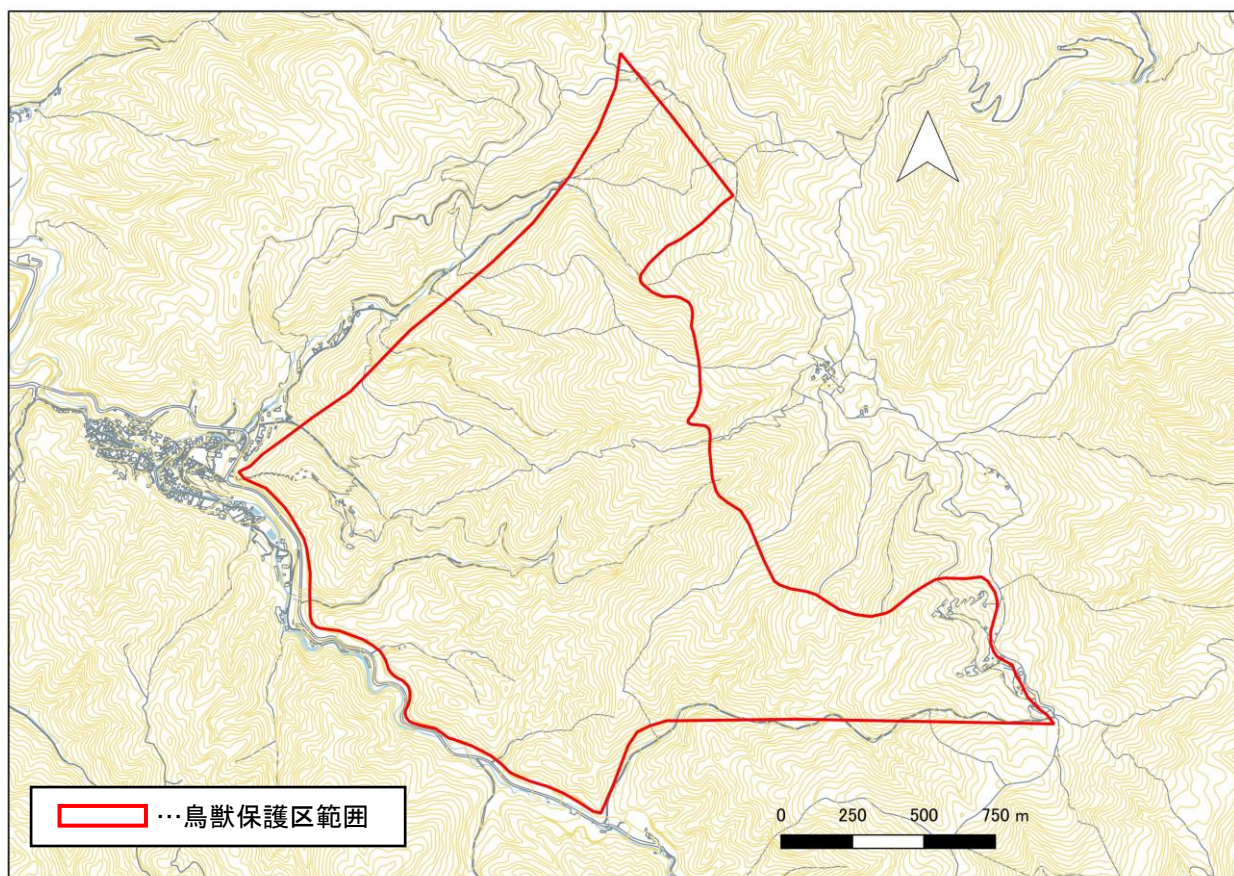


図 2-1 金剛山麓鳥獣保護区の範囲

3. 調査内容

現地調査及び既存データの整理により、下記の事項を把握する。

- ・ 鳥獣生息状況（リスト作成）、生息密度、特色
- ・ 利用状況（野鳥観察者数など）

4. 調査地の概要及び環境

金剛山麓鳥獣保護区は、奈良県と境を接する大阪府の南東端部、南河内郡千早赤阪村の南東部に位置し、東側は奈良県境と接する。金剛生駒紀泉国定公園に含まれ、1989年に大阪府が選定している大阪府内の自然名所100カ所「大阪みどりの百選」に選定されている。県境を挟んだ東の奈良側は金剛葛城鳥獣保護区に制定されている。保護区内に大阪府の最高地点があり、裾野には集落等もあるが、保護区内のほとんどが山地地形となっている。植生としては暖帯林から府下では珍しい冷温帯林までを含む地域で、スギやヒノキの植林が多く、その中にコナラ・アベマキ林などの2次林が散在し、尾根筋にはブナやミズナラなどの冷温帯を代表する落葉樹も交え、また襲速紀要素の北限域として植物地理学的にも特筆すべき地域となっている。そこに生息する動物や昆虫類なども、植生の多様性を反映して多種多様なものが生育し、大阪の生物多様性ホットスポットAランクに指定されている。保護区の標高は470m～1053m、面積は約326haである。

鳥獣保護区内には「府民の森」として「ちはや園地」があり、その中心には金剛山の自然やそこから見える星空の情報拠点となる「ちはや星と自然のミュージアム」や宿泊施設として活用されている「香楠荘」があるが、金剛山ロープウェイ運休のため、「香楠荘」は令和元年9月より休館となっている。園地は平成30年度には登山者、自然愛好家など80,247人の利用者を数えるなど、大阪府のみならず奈良県など近隣自治体の住民の憩いの場として人気が高い。また、山頂部奈良県側には原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、施業及び管理技術の発展等に資することを目的として約16.2haの金剛山ブナ植物群落保護林も設置されている。

参考：「事業報告書」（一般社団法人大阪府みどり公社、2019年3月）

参考：「大阪の生物多様性ホットスポット-多様な生き物たちに会える場所-」（大阪府環境農林水産部みどり推進室みどり企画課、2016年1月）

5. 調査方法

調査は、現地調査及び表 5-1 に示す文献による文献調査（文献 4 は哺乳類のみ）により実施した。

現地調査は、ラインセンサス法と、任意観察を実施した。ラインセンサス法では、調査ルートを約 2km/h の速度で歩き、片側 25m 両側合わせて 50m の範囲の鳥獣を記録した。調査ルートは、金剛山ロープウェイ前駐車場付近の登山口から念仏坂を通り伏見峠までの約 2000m を設定した。ルートの位置は図 6-1 に示すとおりである。任意観察では、保護区内の農耕地、市街地、ため池など局所的な環境の生息種や、猛禽類など広域な生活基盤を持つ種の生息状況を意識し、保護区内の要所を任意に歩いて確認した鳥類を記録した。調査時期は、繁殖期及び越冬期とした。

また、調査毎に重要種を選出した。重要種の選定基準は表 5-2 による。

表 5-1 参考文献

文献 No.	文献名	発行年・発行者
文献 1	大阪府鳥類目録 2016 地域別鳥類リスト	2017 年・日本野鳥の会大阪支部
文献 2	金剛山の野鳥 第 4 刷	2018 年・一般財団法人大阪府みどり公社
文献 3	金剛山の野鳥たち	1995 年・大田 正利
文献 4	大阪の自然 大阪自然科学研究会編	1966 年・株式会社六月社

表 5-2 選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）
環境省レッドリスト 2019（環境省 R L）
大阪府レッドリスト 2014（大阪府 R L）

6. 調査地区位置図

調査範囲は金剛山麓鳥獣保護区全域とした。ラインセンサスに用いたルートは図 6-1 に示すとおりである。

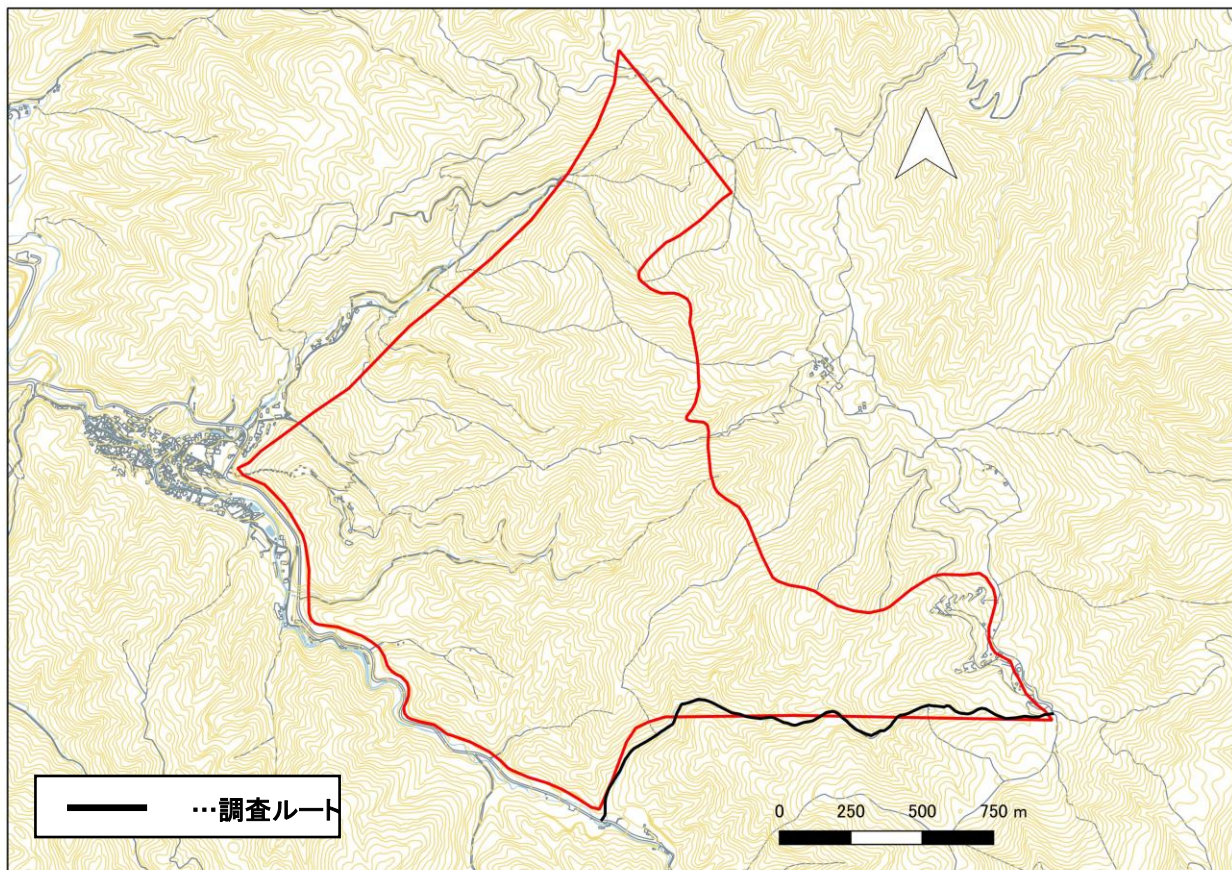


図 6-1 調査地点位置図

7. 調査結果

7-1 鳥類現地調査結果

① 調査時期・天候・時間

現地調査時期、天候、調査時間を表 7-1 に示す。

表 7-1 調査時期・天候・調査時間

調査時期	調査日時	天候	調査時間	
繁殖期	令和元年 6 月 9 日	晴れ	ルート	7:30～9:04
			任意	9:10～13:05
越冬期	令和元年 12 月 8 日	曇り	ルート	8:00～9:45
			任意	7:50～8:00 9:45～13:00

② 鳥類確認種

現地調査の結果、4 目 17 科 31 種の野鳥を確認した。

現地調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥 17 種、夏鳥 8 種、冬鳥 4 種、旅鳥 1 種、外来種 1 種であり、留鳥 55%、夏鳥 26%、冬鳥 13%、旅鳥 3%、外来種 3%と、一年を通してみられる種がほぼ半分を占める割合を示した（表 7-2、図 7-1）。渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」（2017 年 3 月 31 日、日本野鳥の会大阪支部）に従った。

渡り区分	確認種数	割合
留鳥	17 種	55%
夏鳥	8 種	26%
冬鳥	4 種	13%
旅鳥	1 種	3%
外来種	1 種	3%

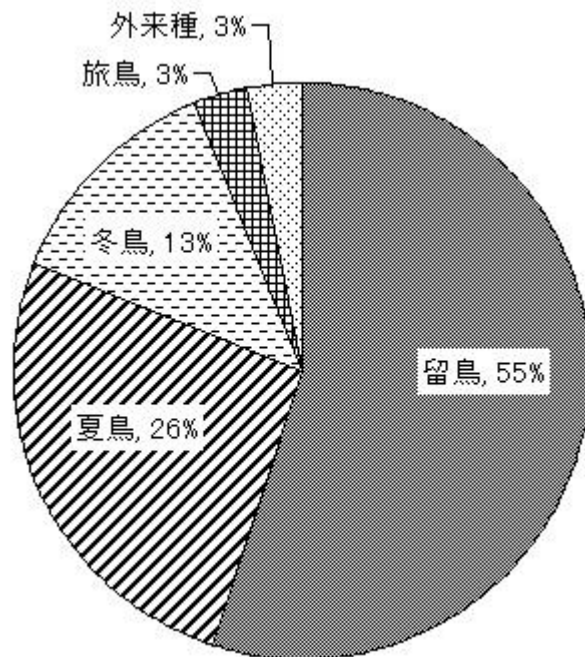


図 7-1 現地調査 渡り区分の内訳

表 7-2 現地調査 鳥類確認種

No.	目名	科名	学名	種名	繁殖期	越冬期	渡り区分			
1	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	留鳥			
2	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○		夏鳥			
3				ツツドリ	○		夏鳥			
4				カッコウ	○		夏鳥			
5	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	留鳥			
6				アオゲラ	○		留鳥			
7	スズメ	カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○		夏鳥			
8		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	○	留鳥			
9			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	留鳥			
10		シジュウカラ	<i>Poecile montanus</i>	コガラ		○		留鳥		
11					<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	留鳥	
12					<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○	○	留鳥	
13					<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	留鳥	
14			ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	留鳥		
15			ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	留鳥		
16				<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○		夏鳥		
17			エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○		留鳥		
18			ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	○		旅鳥		
19					<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		夏鳥	
20			ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	ゴジュウカラ	○	○	留鳥		
21			ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○	○	留鳥		
22		ヒタキ	<i>Turdus naumanni</i>	<i>Tarsiger cyanurus</i>	ツグミ		○	冬鳥		
23						ルリビタキ		○	冬鳥	
24						<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○		夏鳥
25						<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○		夏鳥
26			セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ		○	留鳥		
27	アトリ	<i>Chloris sinica</i>	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	カワラヒワ	○		留鳥			
28				ウソ		○		冬鳥		
29	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	<i>Emberiza spodocephala</i>	ホオジロ	○		留鳥			
30				アオジ		○		冬鳥		
31		チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○		外来			
合計	4目	17科	31種		25種	17種	—			

分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。

③ 繁殖する鳥類

繁殖期調査において確認した 25 種のうち、旅鳥のオオムシクイを除く 24 種については、いずれも保護区周辺で繁殖している可能性がある（繁殖ランク B または C に該当）。このうち 17 種は現地調査において囀りや巣材運びなどの繁殖を示唆する行動が確認され、保護区内で繁殖している可能性が高い。その内訳は表 7-3 に示すとおりである。繁殖行動の判定基準は、全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（NPO 法人バードリサーチ、<https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）に準じた。

表 7-3 鳥類の繁殖状況

ランク	観察コード	観察事項	該当種
B (繁殖の可能性が高い) 17 種	30	その種が営巣し得る環境で繁殖期に、その種のさえずり（キツツキ類のドラミングを含める）を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く	ホトトギス、ツツドリ、カッコウ、コゲラ、サンコウチョウ、ヒガラ、シジュウカラ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、キビタキ、オオルリ、カワラヒワ、ホオジロ、ソウシチョウ
	36	成鳥が巣材を運搬している。ただし、明らかに周囲に巣を構えていると思われる場合に限る	ミソサザイ
C (繁殖の可能性あり) 7 種	50	その種が営巣し得る環境で繁殖期にその種を確認したが、他には繁殖の兆候が認められない。ただし冬鳥または旅鳥は過去にその地方で繁殖の記録があるもの	キジバト、アオゲラ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒヨドリ、エナガ

※全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（2014, NPO 法人バードリサーチ <https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）を参照し、該当箇所を抜粋して作成した。

④ 鳥類の生息個体数

ラインセンサスによる調査の結果、4目13科22種127羽の鳥類を確認した。調査ルートにおける調査回毎の個体数を表7-4に示す。繁殖期には夏鳥のオオルリやヤブサメ、ホトトギス、ツツドリ、カッコウなどのほか、留鳥のミソサザイ、ウグイス、ヒガラなどや、外来種のソウシチョウの囀りがよく聞かれたが、個体数は少なめであった。越冬期には冬鳥のルリビタキやアオジに加えてヒガラやヤマガラなどのカラ類の群れなども見られたが、個体数は少なかった。

表 7-4 調査回毎の確認個体数

No.	目名	科名	種名	繁殖期	越冬期	計		
1	ハト	ハト	キジバト		2	2		
2	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	1		1		
3			ツツドリ	1		1		
4			カッコウ	1		1		
5	キツツキ	キツツキ	コゲラ		3	3		
6			アオゲラ	2		2		
7	スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ	2		2		
8		カラス	カケス	1	1	2		
9			ハシブトガラス	2	2	4		
10		シジュウカラ	コガラ		1	1		
11			ヤマガラ		5	5		
12			ヒガラ	5	33	38		
13			シジュウカラ	2	2	4		
14		ヒヨドリ	ヒヨドリ	5	3	8		
15		ウグイス	ウグイス	9	4	13		
16			ヤブサメ	1		1		
17		エナガ	エナガ	2		2		
18		ミソサザイ	ミソサザイ	17	1	18		
19		ヒタキ	ルリビタキ		3	3		
20			オオルリ	6		6		
21		ホオジロ	アオジ		2	2		
22		チメドリ	ソウシチョウ	8		8		
		4目	13科	22種	種数	16	13	22
					個体数	65	62	127

⑤ 鳥類の生息密度

ラインセンサス法は、設定したルート of 両側 25m 内で確認した鳥類を記録した結果であるため、ラインの距離×50m の面積中に生息する個体数を示すものである。この個体数を面積で除算することで、各種鳥類の生息密度が計算される。各期の各ルート及び、全ルート合計した場合の、鳥類の 1ha あたりの生息密度を 表 7-5 に示す。

表 7-5 個体数密度 (羽/1ha)

No.	目名	科名	種名	繁殖期	越冬期	計
1	ハト	ハト	キジバト		0.20	0.20
2	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	0.10		0.10
3			ツツドリ	0.10		0.10
4			カッコウ	0.10		0.10
5	キツツキ	キツツキ	コゲラ		0.31	0.31
6			アオゲラ	0.20		0.20
7	スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ	0.20		0.20
8		カラス	カケス	0.10	0.10	0.20
9			ハシブトガラス	0.20	0.20	0.41
10		シジュウカラ	コガラ		0.10	0.10
11			ヤマガラ		0.51	0.51
12			ヒガラ	0.51	3.36	3.87
13			シジュウカラ	0.20	0.20	0.41
14		ヒヨドリ	ヒヨドリ	0.51	0.31	0.82
15		ウグイス	ウグイス	0.92	0.41	1.33
16			ヤブサメ	0.10		0.10
17		エナガ	エナガ	0.20		0.20
18		ミソサザイ	ミソサザイ	1.73	0.10	1.83
19		ヒタキ	ルリビタキ		0.31	0.31
20			オオルリ	0.61		0.61
21		ホオジロ	アオジ		0.20	0.20
22		チメドリ	ソウシチョウ	0.82		0.82
			鳥類全種	6.63	6.32	12.95

⑥ 重要種

現地調査で確認した鳥類のうち、重要種に該当する種は2目3科4種であった。確認した重要種を表7-6に示す。

今回の調査で、種の保存法記載種は記録できず、環境省レッドリスト記載種を1種、大阪府レッドリスト記載種を3種確認した。レッドリスト記載種4種のうち、ツツドリとセンダイムシクイは轉りを確認し、繁殖している可能性が高い。オオムシクイは日本では繁殖が知床半島で知られているのみであり、渡りの途中で轉っていた個体と考えられる。

表 7-6 現地調査 確認した鳥類重要種

No.	目	科	学名	種名	環境省RL	大阪府RL
1	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ		NT
2	スズメ	ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	DD	
3			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ		NT
4		ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	ゴジュウカラ		NT
合計	2目	3科	4種		1種	3種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

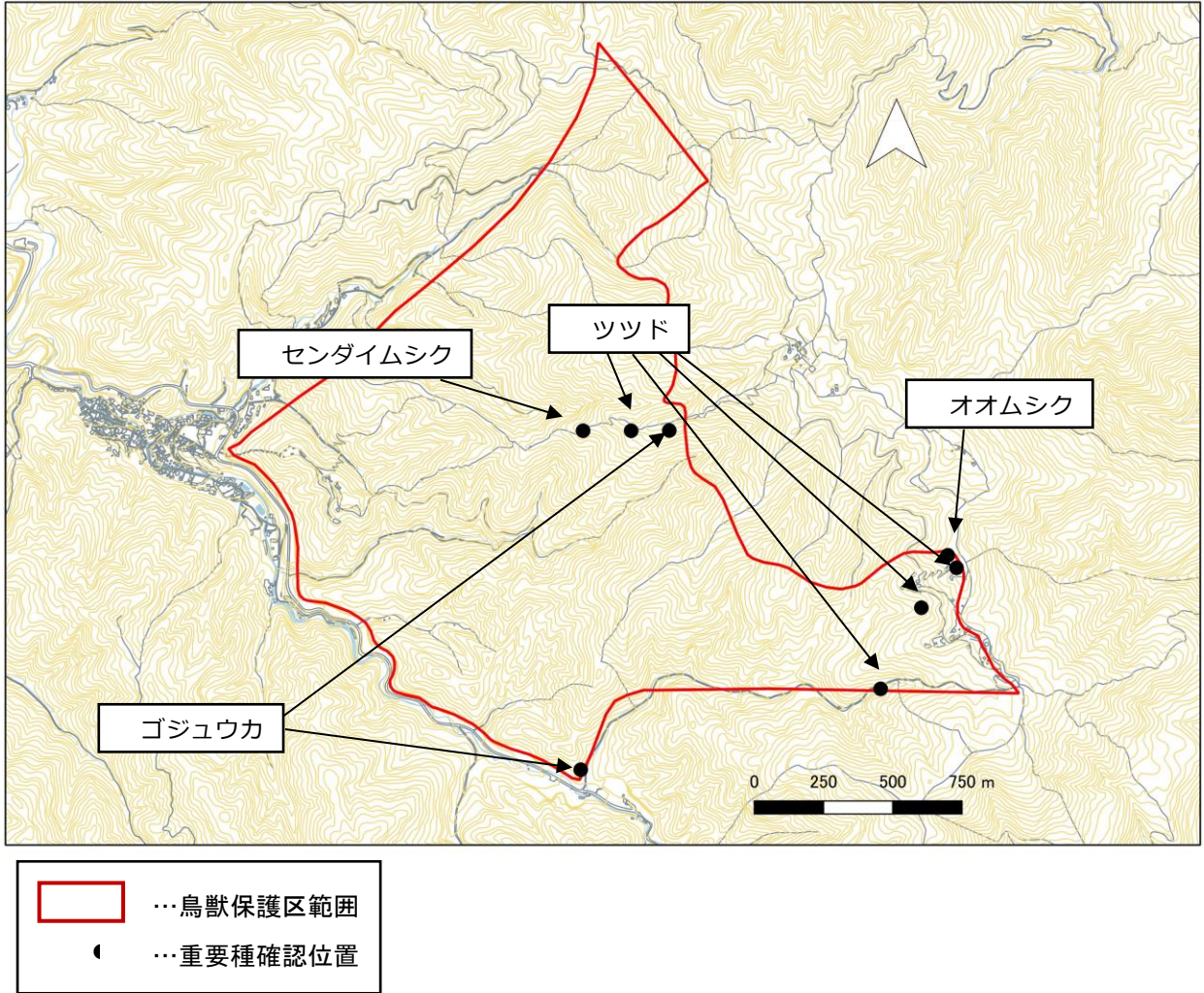


図 7-2 重要種確認位置図

7-2 哺乳類現地調査結果

① 確認種

現地調査の結果、3目3科3種の哺乳類を確認した。確認した哺乳類を表 7-7 に示す。学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定2版」(東海大学出版会、2008)に従った。

表 7-7 現地調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	学名	種名	備考
1	食肉目	イタチ科	<i>Martes melampus</i>	テン	
2	偶蹄目	イノシシ科	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ	
3	齧歯目	リス科	<i>Petaurista leucogenys</i>	ムササビ	巣箱齧り跡
合計	3目	3科	3種		

② 重要種

現地調査で確認した哺乳類のうち、種の保存法および環境省レッドリスト記載種はなく、大阪府レッドリスト記載種はムササビ1種であった。

表 7-8 現地調査 確認した哺乳類重要種

日時	目名	科名	種名	大阪府RL
2019/6/9	齧歯目	リス科	ムササビ	NT
合計	1目	1科	1種	

7-3 鳥類文献調査結果

表 5-1 で示したそれぞれの文献の記載概況を表 7-9 に示す。

表 7-9 文献概要

文献No.	文献・情報名	記載概要
文献1	大阪府鳥類目録 2016 地域別鳥類リスト	大阪府で記録された鳥の概要及び地域別のリストが記載されている。
文献2	金剛山の野鳥 第4刷	ちはや星と自然のミュージアムで購入できる金剛山の鳥の図鑑
文献3	金剛山の野鳥たち	大田正利氏による金剛山の鳥の観察リスト

① 確認種

文献調査の結果、13目37科114種の鳥類を確認した。確認種を表7-10文献調査鳥類確認種(1/3)に、渡り区分の内訳を図7-1示す。

文献別では、文献1で105種、文献2で78種、文献3で89種を確認した。

分類は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。

文献調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥40種、夏鳥19種、冬鳥29種、旅鳥21種、迷鳥3種、外来種2種であり、留鳥35%、夏鳥17%、冬鳥25%、旅鳥18%、迷鳥3%、外来種2%であった。現地調査の結果と比較して、冬鳥と旅鳥の比率が非常に高くなっている。冬鳥は渡来数の年変動が多いアトリ科などの鳥の記録が多く、また旅鳥は春と秋の渡りの時期に短期間のみ通過するため、いずれも今回の現地調査では確認が難しかったためであると思われる。なお、渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」(2017年3月31日, 日本野鳥の会大阪支部)に従った。なお、トラツグミとコサメビタキについては、冬鳥(一部留鳥)、旅鳥(一部夏鳥)と記載されているが、調査地域での繁殖の可能性を考えて、それぞれ留鳥、夏鳥として分類した。また、アカハラについては、旅鳥(一部冬鳥)と記載されているが、本地域では渡りの時期に通過するものが大半であるため、旅鳥として分類した。

生息区分	確認種数	割合
留鳥	40種	35%
夏鳥	19種	17%
冬鳥	29種	25%
旅鳥	21種	18%
迷鳥	3種	3%
外来種	2種	2%

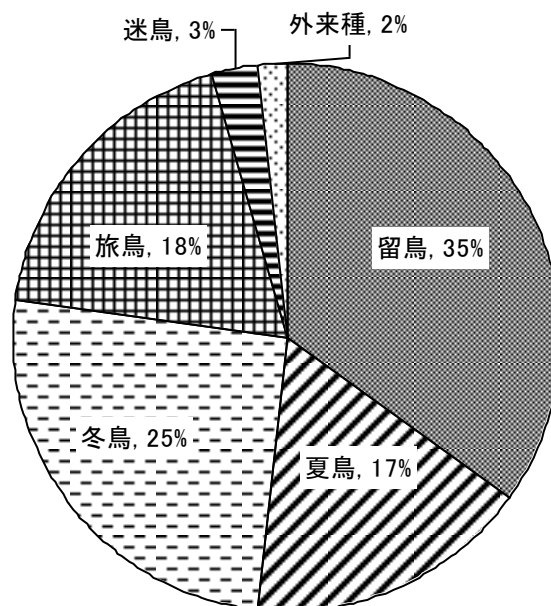


図 7-1 文献調査 渡り区分の内訳

表 7-10 文献調査 鳥類確認種 (1/3)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ	○	○	○	留鳥
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ			○	留鳥
3	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	○	留鳥
4			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト	○	○	○	留鳥
5	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goesagi</i>	ミゾゴイ	○			夏鳥
6			<i>Nycticorax nycticorax</i>	ゴイサギ	○			留鳥
7			<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○			留鳥
8	カッコウ	カッコウ	<i>Hierococyx hyperythrus</i>	ジュウイチ	○	○	○	旅鳥
9			<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○	○	○	夏鳥
10			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○	○	○	夏鳥
11			<i>Cuculus canorus</i>	カッコウ	○		○	夏鳥
12	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ	○	○	○	夏鳥
13	アマツバメ	アマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>	ハリオアマツバメ	○			旅鳥
14			<i>Apus pacificus</i>	アマツバメ	○		○	旅鳥
15			<i>Apus nipalensis</i>	ヒメアマツバメ	○			留鳥
16	チドリ	シギ	<i>Scolopax rusticola</i>	ヤマシギ			○	冬鳥
17	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ	○	○		夏鳥
18			<i>Milvus migrans</i>	トビ	○		○	留鳥
19			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ	○			留鳥
20			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ	○	○	○	冬鳥
21			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	○	○	○	留鳥
22			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	○	○	○	夏鳥
23			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ	○	○	○	冬鳥
24			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	○		○	留鳥
25	フクロウ	フクロウ	<i>Otus sunia</i>	コノハズク	○			旅鳥
26			<i>Strix uralensis</i>	フクロウ	○	○	○	留鳥
27			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			○	夏鳥
28	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Halcyon coromanda</i>	アカショウビン	○			旅鳥
29	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	○	留鳥
30			<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ	○	○	○	留鳥
31			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ	○		○	冬鳥
32			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○	○	○	留鳥
33	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	チゴハヤブサ	○	○		旅鳥
34			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	○			留鳥
35	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ	○	○		夏鳥
36		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○		○	夏鳥
37		モズ	<i>Lanius tigrinus</i>	チゴモズ	○			迷鳥
38			<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○	○	○	留鳥
39			<i>Lanius cristatus</i>	アカモズ			○	旅鳥
40		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	○	○	留鳥
41			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○		○	留鳥
42			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	○	留鳥
43		キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	キクイタダキ	○	○	○	冬鳥
44		シジュウカラ	<i>Poecile montanus</i>	コガラ	○	○	○	留鳥
45			<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	○	留鳥
46			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○	○	○	留鳥

表 7-10 文献調査 鳥類確認種 (2/3)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分
47	スズメ	シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○	留鳥
48		ツバメ	<i>Riparia riparia</i>	ショウドウツバメ	○			旅鳥
49			<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○	○	○	夏鳥
50			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ	○	○	○	夏鳥
51			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ	○	○	○	夏鳥
52		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	○	留鳥
53		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○	留鳥
54			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○	○	○	夏鳥
55		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	○	留鳥
56	ムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	メボソムシクイ	○	○	○	旅鳥	
57		<i>Phylloscopus borealoides</i>	エゾムシクイ			○	旅鳥	
58		<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○	○	○	夏鳥	
59	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	○	留鳥	
60	レンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>	キレンジャク	○	○	○	冬鳥	
61		<i>Bombycilla japonica</i>	ヒレンジャク	○	○	○	冬鳥	
62	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	ゴジュウカラ	○	○	○	留鳥	
63	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	キバシリ	○			冬鳥	
64	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○	○	○	留鳥	
65	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ			○	留鳥	
66	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス	○		○	留鳥	
67	ヒタキ	<i>Zoothera sibirica</i>	マミジロ	○	○	○	旅鳥	
68		<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ	○	○	○	留鳥	
69		<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○	○	○	夏鳥	
70		<i>Turdus obscurus</i>	マミチャジナイ	○	○		旅鳥	
71		<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ	○	○	○	冬鳥	
72		<i>Turdus chrysolaus</i>	アカハラ	○	○	○	旅鳥	
73		<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ	○	○	○	冬鳥	
74		<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ	○	○	○	旅鳥	
75		<i>Luscinia calliope</i>	ノゴマ	○			旅鳥	
76		<i>Luscinia cyane</i>	コルリ	○	○	○	旅鳥	
77		<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ	○	○	○	冬鳥	
78		<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ	○	○	○	冬鳥	
79		<i>Saxicola torquatus</i>	ノビタキ	○	○	○	旅鳥	
80		<i>Muscicapa griseisticta</i>	エゾビタキ	○	○	○	旅鳥	
81		<i>Muscicapa sibirica</i>	サメビタキ	○	○	○	旅鳥	
82		<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○	○	○	夏鳥	
83		<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○	○	○	夏鳥	
84	<i>Ficedula mugimaki</i>	ムギマキ	○	○		旅鳥		
85	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○	○	○	夏鳥		
86	イワヒバリ	<i>Prunella montanella</i>	ヤマヒバリ	○			迷鳥	
87		<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ	○	○	○	冬鳥	
88	スズメ	<i>Passer rutilans</i>	ニュウナイスズメ	○			冬鳥	
89		<i>Passer montanus</i>	スズメ	○		○	留鳥	
90	セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○	○	○	留鳥	
91		<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ	○		○	留鳥	
92		<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	○		○	留鳥	

表 7-10 文献調査 鳥類確認種 (3/3)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分	
93	スズメ	セキレイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ	○	○	○	冬鳥	
94		アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ	○	○	○	冬鳥	
95			<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○	○	○	留鳥	
96			<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ	○	○	○	冬鳥	
97			<i>Carduelis flammea</i>	ベニヒワ	○			迷鳥	
98			<i>Leucosticte arctoa</i>	ハギマシコ	○	○		冬鳥	
99			<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ	○	○	○	冬鳥	
100			<i>Carpodacus roseus</i>	オオマシコ	○	○	○	冬鳥	
101			<i>Loxia curvirostra</i>	イスカ	○	○		冬鳥	
102			<i>Pyrhula pyrrhula</i>	ウソ	○	○	○	冬鳥	
103			<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ	○	○	○	冬鳥	
104			<i>Eophona migratoria</i>	コイカル			○	冬鳥	
105			<i>Eophona personata</i>	イカル	○	○	○	留鳥	
106			ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○	○	○	留鳥
107				<i>Emberiza fucata</i>	ホオアカ			○	冬鳥
108				<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ	○	○	○	冬鳥
109				<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ	○	○		冬鳥
110				<i>Emberiza sulphurata</i>	ノジコ			○	旅鳥
111	<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ		○	○	○	冬鳥		
112	<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ		○	○	○	冬鳥		
113	キジ	キジ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ	○	○	○	外来	
114	スズメ	チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○	○		外来	
計	13 目	37 科	114 種		105	78	89		

② 重要種

文献調査で確認した鳥類のうち、重要種に該当する種は 8 目 15 科 27 種であった。確認した重要種を表 7-11 に示す。

文献調査で、種の保存法記載種を 2 種、環境省レッドリスト記載種を 5 種、大阪府レッドリスト記載種を 23 種確認した。レッドリスト記載種 27 種全てが山野の鳥であり、このうちタカ科 (6 種) とフクロウ科 (3 種) の計 9 種が記録されている。これらの鳥が他の生物を捕食する食物連鎖の最上位に位置することから、本地域の自然が豊かで多様性に富んでいることを示している。

表 7-11 文献調査 鳥類重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL		
1	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ		VU	VU		
2	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			NT		
3	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ			VU		
4	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			CR+EN		
5			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			VU		
6			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			NT		
7			<i>Butastur indicus</i>	サシバ		VU	CR+EN		
8			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			NT		
9			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	国内希少		CR+EN		
10			フクロウ	フクロウ	<i>Otus sunia</i>	コノハズク			DD
11					<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			NT
12					<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			VU
13	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ			NT		
14	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	国内希少				
15	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ			VU		
16		モズ	<i>Lanius tigrinus</i>	チゴモズ		CR			
17			<i>Lanius cristatus</i>	アカモズ		EN			
18		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			NT		
19		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			NT		
20		ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	ゴジュウカラ			NT		
21		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			NT		
22		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			NT		
23			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ			VU		
24		ホオジロ	<i>Emberiza fucata</i>	ホオアカ			NT		
25			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			NT		
26			<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ			NT		
27			<i>Emberiza sulphurata</i>	ノジコ		NT			
計		8 目	15 科	27 種		2 種	5 種	23 種	

CR+EN：絶滅危惧 I 類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧 II 類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

7-4 哺乳類文献調査結果

表 5-1 で示した文献の記載概況を表 7-13 に示す。

表 7-13 文献概要

文献 No.	文献・情報名	記載概要
文献 4	大阪の自然 大阪自然科学研究会編	府下の自然環境及び生物相、ハイキングコースなどについて解説し、また地域別・分野別の解説もある。

① 確認種

文献調査の結果、4 目 5 科 8 種の哺乳類を確認した。確認した哺乳類を表 7-14 に示す。学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定 2 版」(東海大学出版会、2008) に従った。

表 7-14 文献調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	学名	種名
1	食虫目	モグラ科	<i>Urotrichus talpoides</i>	ヒミズ
2	偶蹄目	イノシシ科	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ
3	齧歯目	リス科	<i>Sciurus lis</i>	ニホンリス
4		ネズミ科	<i>Eothenomys smithii</i>	スミスネズミ
5			<i>Microtus montebelli</i>	ハタネズミ
6			<i>Apodemus speciosus</i>	アカネズミ
7			<i>Apodemus argenteus</i>	ヒメネズミ
8	兎目	ウサギ科	<i>Lepus brachyurus</i>	ニホンノウサギ
計	4 目	5 科	8 種	

② 重要種

文献調査で確認した哺乳類のうち、重要種の該当する種は表 7-15 に示す 1 目 1 科 2 種であった。このうち種の保存法および環境省レッドリスト記載種はなく、大阪府レッドリスト記載種は 2 種であった。

表 7-15 文献調査 哺乳類重要種

No.	目名	科名	学名	種名	大阪府 R L
1	齧歯目	ネズミ科	<i>Eothenomys smithii</i>	スミスネズミ	VU
2			<i>Microtus montebelli</i>	ハタネズミ	CR+EN
計	1 目	1 科	2 種		2 種

8. まとめ

1. 現地調査の結果、4目17科31種の鳥類を確認した。各調査回の確認種数は繁殖期が25種、越冬期が17種であった。また、確認した鳥類の渡り区分の内訳は、留鳥55%、夏鳥26%、冬鳥13%、旅鳥3%、外来種3%と、留鳥の割合が半数以上を占め、次いで夏鳥の割合が高い結果となった。繁殖を確認した種（Aランク）はなく、繁殖の可能性が高い種（Bランク）は17種であった。
ラインセンサス法で記録された鳥類は、4目13科22種127羽であり、繁殖期に3目12科16種65羽、越冬期に3目9科13種62羽であった。
2. 文献調査の結果、13目37科114種の鳥類が確認され、そのうち26種が重要種であった。これら確認種の渡り区分の内訳は、留鳥35%、夏鳥17%、冬鳥26%、旅鳥19%、迷鳥3%、外来種2%であり、現地調査の結果と比較し、冬鳥の割合が高かった。
3. 現地調査と文献調査により、鳥類が13目37科115種、哺乳類が5目6科10種確認され、そのうち重要種は鳥類28種、哺乳類3種であった（表8-1、8-2、8-3、8-4、8-5、8-6参照）。
4. 現地調査における重要種は全て陸鳥で、環境省レッドリスト記載種1種、大阪府レッドリスト記載種3種を確認した。また、文献調査における重要種も全て陸鳥で、種の保存法記載種は2種、環境省レッドリスト記載種は4種、大阪府レッドリスト記載種は23種であった。このうちタカ科（6種）とフクロウ科（3種）の計9種が記録されている。これらの鳥が他の生物を捕食する食物連鎖の最上位に位置することから、本地域はこれら猛禽類の餌動物が多く生息する自然が豊かで多様性に富んだ環境であると言える。
5. 哺乳類については、現地調査によって3目3科3種、文献調査によって4目5科8種が確認され、そのうち重要種は3種であった。各地で増加による森林被害が問題視されているニホンジカの生息痕跡は確認されなかったが、近年大阪府南部の山地で散発的にシカの日撃や糞痕の観察例があるため、引き続き当該地域での日撃情報やササや低木のシカの食害による減少などがないか、継続的に情報収集が行われることが望ましい。
6. 金剛山麓鳥獣保護区には、今後も保護区として更新を続け、この貴重な自然環境の保護及び保全を続けることは重要であると考えられる。
7. このように金剛山麓鳥獣保護区は、一年中生息する留鳥だけでなく、冬期に滞在する冬鳥や夏期に渡来して繁殖する夏鳥も多く、希少な鳥類も多く生息している府下でも豊かな環境を有している地域であると言える。なかでも食物連鎖の最上位に位置するタカ科やフクロウ科などの猛禽類が多く生息していることから、自然が豊かで多様性に富んでおり、野生鳥獣の生息に非常に重要な地域であると考えられる。また山頂部に「ちはや星と自然のミュージアム」があり、自然レクリエーションとしての利用価値も非常に高く、これら自然に触れ合う場として多くの府民に利用されていることから、金剛山麓鳥獣保護区は今後も更新を続け、優良な野生鳥獣の生息地として、またそれらと府民が触れ合う場として、引き続き保全されることが必要であると考えられる。

表 8-1 現地調査・文献調査 鳥類確認種 (1/3)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献 1	文献 2	文献 3
					繁殖 期	越冬 期			
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ			○	○	○
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ					○
3	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	○	○	○
4			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト			○	○	○
5	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ			○		
6			<i>Nycticorax nycticorax</i>	ゴイサギ			○		
7			<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ			○		
8	カッコウ	カッコウ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	ジュウイチ			○	○	○
9			<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○		○	○	○
10			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○		○	○	○
11			<i>Cuculus canorus</i>	カッコウ	○		○		○
12	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ			○	○	○
13	アマツバメ	アマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>	ハリオアマツバメ			○		
14			<i>Apus pacificus</i>	アマツバメ			○		○
15			<i>Apus nipalensis</i>	ヒメアマツバメ			○		
16	チドリ	シギ	<i>Scolopax rusticola</i>	ヤマシギ					○
17	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			○	○	
18			<i>Milvus migrans</i>	トビ			○		○
19			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			○		
20			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ			○	○	○
21			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			○	○	○
22			<i>Butastur indicus</i>	サシバ			○	○	○
23			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			○	○	○
24			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ			○		○
25	フクロウ	フクロウ	<i>Otus sunia</i>	コノハズク			○		
26			<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			○	○	○
27			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク					○
28	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Halcyon coromanda</i>	アカショウビン			○		
29	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	○	○	○
30			<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ			○	○	○
31			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ			○		○
32			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○		○	○	○
33	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	チゴハヤブサ			○	○	
34			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ			○		
35	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ			○	○	
36		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○		○		○
37		モズ	<i>Lanius tigrinus</i>	チゴモズ			○		
38			<i>Lanius bucephalus</i>	モズ			○	○	○
39			<i>Lanius cristatus</i>	アカモズ					○
40		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	○	○	○	○
41			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス			○		○
42			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	○	○	○
43	キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	キクイタダキ			○	○	○
44	シジュウカラ	シジュウカラ	<i>Poecile montanus</i>	コガラ			○	○	○

表 8-2 現地調査・文献調査 鳥類確認種 (2/3)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献 1	文献 2	文献 3	
					繁殖 期	越冬 期				
45	スズメ	シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	○	○	○	
46			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○	○	○	○	○	
47			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○	○	○	
48	ツバメ		<i>Riparia riparia</i>	ショウドウツバメ			○			
49			<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ			○	○	○	
50			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			○	○	○	
51			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ			○	○	○	
52	ヒヨドリ		<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	
53	ウグイス		<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○	○	○	
54			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○		○	○	○	
55	エナガ		<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○		○	○	○	
56	ムシクイ		<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	○					
57			<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	メボソムシクイ			○	○	○	
58			<i>Phylloscopus borealoides</i>	エゾムシクイ						○
59			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		○	○	○	
60	メジロ		<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ			○	○	○	
61	レンジャク		<i>Bombycilla garrulus</i>	キレンジャク			○	○	○	
62			<i>Bombycilla japonica</i>	ヒレンジャク			○	○	○	
63	ゴジュウカラ		<i>Sitta europaea</i>	ゴジュウカラ	○	○	○	○	○	
64	キバシリ		<i>Certhia familiaris</i>	キバシリ			○			
65	ミソサザイ		<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○	○	○	○	○	
66	ムクドリ		<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ					○	
67	カワガラス		<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			○		○	
68	ヒタキ		<i>Zoothera sibirica</i>	マミジロ			○	○	○	
69			<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			○	○	○	
70			<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ			○	○	○	
71			<i>Turdus obscurus</i>	マミチャジナイ			○	○		
72			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ			○	○	○	
73			<i>Turdus chrysolaus</i>	アカハラ			○	○	○	
74			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ				○	○	○
75			<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ				○	○	○
76			<i>Luscinia calliope</i>	ノゴマ				○		
77			<i>Luscinia cyane</i>	コルリ				○	○	○
78			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ				○	○	○
79			<i>Phoenicurus aureus</i>	ジョウビタキ				○	○	○
80			<i>Saxicola torquatus</i>	ノビタキ				○	○	○
81			<i>Muscicapa griseisticta</i>	エゾビタキ				○	○	○
82			<i>Muscicapa sibirica</i>	サメビタキ				○	○	○
83			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ				○	○	○
84			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○		○	○	○	
85			<i>Ficedula mugimaki</i>	ムギマキ			○	○		
86			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○		○	○	○	
87			イワヒバリ		<i>Prunella montanella</i>	ヤマヒバリ			○	
88	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ					○	○	○	
89	スズメ		<i>Passer rutilans</i>	ニューナイスズメ			○			

表 8-3 現地調査・文献調査 鳥類確認種 (3/3)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献 1	文献 2	文献 3
					繁殖 期	越冬 期			
90	スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	スズメ			○		○
91		セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ			○	○	○
92			<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ				○	○
93			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ				○	○
94			<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ				○	○
95			アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ				○
96		<i>Chloris sinica</i>		カワラヒワ	○			○	○
97		<i>Carduelis spinus</i>		マヒワ				○	○
98		<i>Carduelis flammea</i>		ベニヒワ				○	
99		<i>Leucosticte arctoa</i>		ハギマシコ				○	○
100		<i>Uragus sibiricus</i>		ベニマシコ				○	○
101		<i>Carpodacus roseus</i>		オオマシコ				○	○
102		<i>Loxia curvirostra</i>		イスカ				○	○
103		<i>Pyrrhula pyrrhula</i>		ウソ		○		○	○
104		<i>Coccothraustes coccothraustes</i>		シメ				○	○
105	<i>Eophona migratoria</i>	コイカル							
106	<i>Eophona personata</i>	イカル				○	○		
107	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○			○	○	
108		<i>Emberiza fucata</i>	ホオアカ					○	
109		<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ				○	○	
110		<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ				○	○	
111		<i>Emberiza sulphurata</i>	ノジコ					○	
112		<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ		○		○	○	
113		<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ				○	○	
114	キジ	キジ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ			○	○	
115	スズメ	チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○		○	○	
計	13 目	37 科	115 種						

表 8-4 現地調査・文献調査 鳥類重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ		VU	VU
2	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			NT
3	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ			VU
4	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			CR+EN
5			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			VU
6			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			NT
7			<i>Butastur indicus</i>	サシバ		VU	CR+EN
8			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			NT
9			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	○		CR+EN
10	フクロウ	フクロウ	<i>Otus sunia</i>	コノハズク			DD
11			<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			NT
12			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			VU
13	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ			NT
14	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	○		
15	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ			VU
16		モズ	<i>Lanius tigrinus</i>	チゴモズ		CR	
17		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			NT
18		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ		DD	
19			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			NT
20		ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	ゴジュウカラ			NT
21		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			NT
22		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			NT
23			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ			VU
24		ホオジロ	<i>Emberiza fucata</i>	ホオアカ			NT
25			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			NT
26			<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ			NT
27			<i>Emberiza sulphurata</i>	ノジコ		NT	
計	8 目	15 科	27 種		2 種	5 種	23 種

CR+EN：絶滅危惧 I 類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧 II 類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

表 8-3 現地調査・文献調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	学名	種名
1	トガリネズミ目	モグラ科	<i>Urotrichus talpoides</i>	ヒミズ
2	兎目	ウサギ科	<i>Lepus brachyurus</i>	ニホンノウサギ
3	鯨偶蹄目	イノシシ科	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ
4	食肉目	イタチ科	<i>Martes melampus</i>	テン
5	齧歯目	リス科	<i>Sciurus lis</i>	ニホンリス
6			<i>Petaurista leucogenys</i>	ムササビ
7		ネズミ科	<i>Eothenomys smithii</i>	スミスネズミ
8			<i>Microtus montebelli</i>	ハタネズミ
9			<i>Apodemus argenteus</i>	ヒメネズミ
10			<i>Apodemus speciosus</i>	アカネズミ
計	5 目	6 科	10 種	

表 8-4 現地調査・文献調査 哺乳類重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の保存法	環境省 R L	大阪府 R L
1	齧歯目	リス科	<i>Petaurista leucogenys</i>	ムササビ			NT
2		ネズミ科	<i>Eothenomys smithii</i>	スミスネズミ			VU
3			<i>Microtus montebelli</i>	ハタネズミ			CR+EN
計	1 目	2 科	3 種		0 種	0 種	3 種

CR+EN：絶滅危惧 I 類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧 II 類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

9. 参考文献

1. 「環境省レッドリスト 2019」(2019 年, 環境省)
2. 「大阪府レッドリスト 2014」(2014 年, 大阪府)
3. 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 国内希少野生動植物種」(環境省)
4. 「大阪府鳥類目録 2016」(2016 年 3 月 31 日, 日本野鳥の会大阪支部)
5. 「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(2012 年, 日本鳥学会)
6. 「金剛山の野鳥 第 4 刷」(一般財団法人大阪府みどり公社, 2018 年 3 月 1 日)
7. 「金剛山の野鳥たち」(大田正利, 1995 年)
8. 「大阪の生物多様性ホットスポット-多様な生き物たちに会える場所-」(大阪府環境農林水産部みどり推進室みどり企画課, 2016 年 1 月)
9. 「日本の哺乳類 改定 2 版」(東海大学出版会, 2008)
10. 「大阪の自然 大阪自然科学研究会編」(株式会社六月社, 1966)